



読んで考えましょう

べんきょうした日 月 日

《ぬいぐるみのちびのうさぎは、もちぬしのえみちゃんに、くさむらにおいていかれてしまいました。》

だんだん日がくれてきました。

あめはやんで、きれいなほしが、一つ二つとみえてきました。

ぬいぐるみのちびのうさぎは、くさかげでしょんぼりしていました。

「こんなところになん日もいたら、わたしはきつとぼろぼろになってしまう。」

そこへ、こおろぎがやってきました。

「やあ、うさぎさん、こんばんは。」

こおろぎは、ぴんとうさぎのあたまへ、

とびあがりました。

①「げんきがないね。」

「ええ。」

「もっとげんきをだせよ。」

こおろぎは、のんきに

いました。

「ようし。こんやはこー

で、おんがくかいをひらこう。」

よんでくるから、ちよつとまってな。」

しばらくすると、かんだんというかわい

いむしと、すずむしが、一足さきにきま

した。

「こんばんは、うさぎさん。」

すずむしもかんだんも、やさしいむしで



●出典 ● 佐藤さとる「い」おひげとおばやぐはま「ま」より

25

20

15

10

5

さいしよにチェック！ つぎのといに答えよう！

① これは、いつ、どこのお話ですか。

(いつ…)

(どこ…)

② うさぎのとてつろへ、さいしよにやうてきたのは、何ですか。

1

線①「げんきがないね」とありますが、うさぎはどんなようすでしたか。本文中の のぶぶんから一つえらび、○でかこみましょう。

★ヒント★「げんきがないようすをあらわすことばをさがそう！」

2

こおろぎは、げんきのないうさぎを見て、どんな気もちになりましたか。ア うらやましく思う気もち。

イ わけを知りたいと思う気もち。

ウ はげましたいと思う気もち。

★ヒント★「こおろぎは「もっとげんきをだせよ。」といっているよ。」

3

こおろぎは、どんなことをきめましたか。

こんや、こーで、

★ヒント★「ようし。」のあとのこおろぎのことばを読んでみよう。

4

線②「なかま」とありますが、一足さきにきたむしを二つ、じゆんに書きぬきましょう。

★ヒント★「こおろぎがいじ、とつじようするむしはなにかな？」



「い」の「い」を「う」にうつしてみよう

だんだん → げんき → 一足さき

12

お話を^{はなし}読んで、^よ
考え^{かんが}ましょう②



読んで考えましょう

① やがて、まつむしとくつわむしがきて、

「やあ、こおろぎのいつていたおんがく
かいのあるのは、ここかい。」

そこへ、さっきのこおろぎが、かねたたきをつれてかえつてきました。

「みんなあつまったかね。ごくろうごくろう。では、はじめようか。」

こおろぎは、ぐるっとみんなをみまわし
(みまわす)
ました。

「すずむしくんは、ここ。まつむしくんはあっち。②かたんくんは、そっちだ。」

うさぎも ② おもわず、 にこにこしてしま

いました。

くさはらで、うつくしいむしのおんがく
かいがはじまりました。

リンリン（すずむし）

ルールヒヨロヒヨロ（かたん）

チンチロリン（まつむし）

ガチャガチャガチャ（くつわむし）

チンチンチン
(かねたたき)

コロコロリー（こおろぎ）



そらには、大きなお月さまが、ゆつくりとのぼっていききました。

●出典● 佐藤さとる 「こおろぎとおきやくさま」 より

さいしょにチェック！

つぎのといに答えよう！

あたらし
新しくきたむしは、
何なんですか。

[illegible]

線①「まつむしとくつわむし」と

(1) だれの話きを聞いてやってきましたか。

本文中の のぶぶんから一つえらび、

○でかこみましょう。

★ヒント★まつむしとくつわむしのことをよく読もう。

□ (2) 何のためにきたのですか。書きぬき
ましょう。

にでるため。

★ヒント★こおろぎのどんな話を聞いてきたのかな？

2

線② 「おもわず、にこにこしてしまいましたが、このときのうさぎは、どんな気持ちですか。

ア
たのしい気もち。

イ
おどろく気もち。

ウ
かなしい気もち。

★ヒント★にこにこするときは、どんな気もちかな？

おんがくかいは、どこでひらかれましたか。書きぬきましよう。

★ヒント★ばしょが書かれているところをさがそう。



このことば、つかってみよう

- みまわす
- おもわず



読んできこえよう

よがあげました。

えみちゃんが、もういちどはらっぱへきました。そのときは、こおろぎだけが、うさぎのよこについていました。

① こおろぎは、一ばんじゅうなきつつけて、すっかりつかれていました。けれども、
② えみちゃんにきこえるように、またちらいつぱいなきました。

「ここですよ、ここですよ。コロコロコロ。」

えみちゃんには、そうきこえました。えみちゃんは、こおろぎのなきごえにお

しえられて、まっすぐぬいぐるみのうさぎにちかよりました。

「あったわ。まあよかった。こんなところにわすれていつて、ごめんね。」

③ えみちゃんは、うさぎをだきあげました。「やれやれ、ぼくも」

ねむりしなくちゃ。」
しんせつなこおろぎは、あくびをしながら、ゆつくりとくさのかけに、もぐっていきました。



25

20

15

●出典 ● 佐藤さとし「いぬのきもちとねこ」

さいしょにチェック！ きのこのとくに答えよう！

① 一つのお話ですか。

② うさぎのよこにいたのは、何ですか。

1

線①「すっかりつかれていました」とありますが、こおろぎがつかれていたのは、なぜですか。

一ばんじゅう

★ヒント★こおろぎは、一ばんじゅうなをきこえていたのかな？

2

線②「えみちゃんにきこえるように、またちからいつぱいなきました」とありますが、こおろぎは、何のためにな

いたのですか。

ア えみちゃんに帰ってもらうため。
イ 自分のなきごえをきいてもらうため。
ウ うさぎのいばしよを知らせるため。

★ヒント★こおろぎが音を出したわけを考えよう！

3

線③「えみちゃんは、うさぎをだきあげました」とありますが、このときのえみちゃんは、どんな気もちですか。
ア うれしい気もち。
イ くやしい気もち。
ウ さびしい気もち。

★ヒント★なくしたぬいぐるみをみつけたときのえみちゃんの気もちを考えよう！



「いぬのきもちとねこ」

よがあげる
せんがのちからで
ちからいつぱい
しんせつ
みかこようとして、おどろきやうが



読んで考えましょう

べんきょうした日 月 日

体の後ろにトゲをたくさんつけている動物。ヤマアラシです。アフリカから東南アジアにかけての山の中腹の岩の多いところや、樹のしげった森林、畑などのある平地などにすんでいます。せなかからおしりにかけて生えている①たくさんのトゲは、てきから身を守るのに役立っています。このトゲは体に生えている毛が変化したものなのです。黒と白とまだらもようのトゲは、成獣となったヤマアラシでは三十センチ近くまでのびたものもあります。このトゲも、体の毛がぬける時期には、毛と同じようにぬけかわります。



ヤマアラシはあなの中にすんでいます。②あなをほるのがとても上手です。短い五本指の足で上手にあなをほります。むれですむ習かんがあります。地上から一・五メートルのところの長さが二十メートル近く、広さが六平方メートルもの広いヤマアラシの巣が見つかったことがあります。

●出典 ● 杉浦宏「わが子に語る 動物のふしぎな話」より

さいしよにチェック！ つぎのといに答えよう！

① 何の動物について書かれていますか。

② ①の動物の体の、どのぶぶんについて話ですか。

① 線①「たくさんのトゲ」とありますが、

(1) 体のどこに生えていますか。

ア 頭からせなかにかけてのところ。

イ せなかからおしりにかけてのところ。

ウ おなかから顔にかけてのところ

② 何のために生えているのですか。

できから

(3) 何が変化したものですか。書きぬきましよう。

体に生えている

② 線②「あなをほるのがとても上手です」とありますが、ヤマアラシは、どのようにあなをほりますか。書きぬきましよう。

をつかって、上手にほる。

このことば、つかってみよう

・変化する

・むれ

せつめい文を^よ読んで、

かんが
考えましょう
②



読んで考えましょう

ひるま 昼間は岩あなや自分^{じぶん}でほったあななどに
よる すみ、夜^{よる}になるとエサを食^たべに出かけます。
こくるい エサは穀類^{こくるい}や果物^{くだもの}や木の実^みなどです。人家^{じんか}
はたけ のまわりの畑^{はたけ}をあらすこともあります。

てきが近づく^{ちか}とヤマアラシはまずトゲを立てて、しっぽをふってシャツシャツと音を出します。こうして①音を立てててきを追^おいはらうのですが、それでも近づいてきたり、おそったりするとトゲを立てて後ろ^{うし}むきになってぶつかります。(中略)
ちゅうりやく

ヤマアラシはハチのはりように針をつきさす
と針がぬけててきの体からだにのこつてしまうの

です。その針がてきの内臓ないぞうにまでつきささり、
② トラのようなもうじゅうでも苦くるしんで死しんでしまうこともよくあります。

ギリシヤ時代じだいの人たちは、（中略）ヤマアラシの針でもがき苦しんでいる動物どうぶつを見て、ヤマアラシの針をはっしやふんだのではなく、ヤマアラシが針をあいて発射して相手の動物につきさしたのではないかと考えていました。てきにおそわれると針をどんどんミサイルのように発射する動物、
③ そんなイメージ

●出典● 杉浦宏「わが子に語る 動物のふしぎな話」より

さいしよにチェック！

つぎのといに答えよう！

① ヤマアラシのエサは何ですか。

穀類や（ ）や（ ）など
② ヤマアラシがエサを食べに出かけるの
は、いつですか。（ ）

線① 「音を立てててきを追いはら
う」とありますが、どのような音をたて
ますか。

ア トゲをさす音。
イ あたま
ウ 頭をぶつける音。
しつぽをふる音。

線②「トラのようなもうじゅうで
も苦しんで死んでしまうこともよくあり

ます」とありますが、なぜですか。書きぬきましよう。

ヤマアラシの針がぬけて、内臓にまで
 ことがあるから。

線③「そんなイメージ」とありま
すが、どんなイメージですか。

だというイメージ。

★ヒント★ギリシャ時代の人たちが持っていたイメージだよ。

このことば、つかってみよう

こわす。 → あらす
 そこなう。 →
 じゃまなものを →
 追いたててとおさける。 →
 こころの中にえがき出される →
 かたぢやうす。 いんしょう →
 イメージ →

●読んで考えましよう

さいしよにチェック!

おおきな木

- 1 (れい) おはなしをするため。
- 2 (1) こずえのさきのさき
- (2) あくしゅ

3 イ

●ことばについて学びましよう

- 1 (1) チュンユン (2) ポタポタ
- (3) ゴロゴロ (4) ガタンゴトン
- (5) グーグー (6) ガリガリ
- 2 (1) すいすい (2) きらきら
- (3) にこにこ (4) ひらひら
- 3 (1) 風がそよそよとふく。
- (2) うきわがプールにぶかぶかうかんでいる。
- (3) 赤んぼうがすやすやねむる。

●かいせつ

●読んで考えましよう

- 1 「空と／おはなししたくて／せのびをする」とあります。

- 2 「こずえの／さきのさきに／とうめいな手がある」とあります。それがどんな手かは、つづきの「雲と／風と／あくしゅするための」手であることを読みとりましよう。

- 3 「空と／おはなししたくて」、「雲と／風と／あくしゅするため」などのぶぶんから、「おおきな木」の気もちをそうぞうしましよう。

●ことばについて学びましよう

- 1 音をあらわすことばは、カタカナで書くことが多いことをおぼえておきましよう。

●かいせつ

●読んで考えましよう

- 1 うさぎは、えみちゃんにくさむらににおいていかれてしまったことで、「しよんぼり」していたのです。

- 2 こおろぎが、「もつとげんきをだせよ」と言っていることや、「おんがくかい」をひらこうとしていることから考えましよう。

- 3 「こんやはここで、おんがくかいをひらこう」というこおろぎのことばから考えましよう。

●ことばについて学びましよう

- 1 (1) 「強い」とにたいみのことばには、こわい、りっぱだ、まけない、などたくさんありますが、つかう場しよは少しづつちがいます。どういうときによのことばをつかうかを考えてみましよう。

●読んで考えましよう

さいしよにチェック!

- ① ゆうがた・くさむら
- ② こおろぎ

1 しよんぼり

2 ウ

- 3 (れい) おんがくかいをひらくこと。

- 4 かんたん・すずむし

●ことばについて学びましよう

- 1 (1) こわい・りっぱだ・まけない
- (2) しゃべる・会話する・言う
- (3) はらを立てる・いかる・しかる
- (4) 目にする・ながめる・見つめる
- (5) けっせきする・きゅうけいする・よこになる
- (6) 食う・いただく・かじる
- (7) さびしい・つらい・むねがいたい
- 2 (1) 「さらさら」はかわいたものがかかるくふれあうようすを、②「ざらざら」はでこぼこしていてなめらかでないようすをあらわします。
- (2) ①「すっきり」はむだなものがなくて気もちのよいようすを、②「はつきり」はほかのものとのくべつがよくわかるようすをあらわします。

12 お話を読んで、考えましょう② (48～51ページ)

●読んで考えましょう

さいしよにチェック!

まつむし・くつわむし・かねたたき

1 (1) こおろぎ

(2) おんがくかい

2 ア

3 くさはら

●ことばについて学びましょう

1 (1) (手)・中・父・心・毛・月

(2) (本)・北・石・田・左・正

(3) (早)・竹・字・虫・回・自

2 (2) 三(画) (3) 八(画)

(4) 六(画) (5) 七(画)

(6) 六(画) (7) 七(画)

(8) 五(画) (9) 五(画)

●かいせつ

●読んで考えましょう

1 「やあ、こおろぎのいつていたおんがくかいのあるのは、ここかい。」ときいていることから、まつむしとくつわむしは、こおろぎからおんがくかいにさそわれてきたことがわかります。

2 むしたちがあつまってきたて、おんがくかいをはじめようとしているのを見て、うさぎは「おもわず、にこにこ」してしまったのです。おんがくかいがたのしみで、げんきをとりもどしているうさぎの気持ちを考えましょう。

●ことばについて学びましょう

2 (4) 「糸」は正しい書きじゆんのおりに書くと、画数は六画であることがわかります。

13 お話を読んで、考えましょう③ (52～55ページ)

●読んで考えましょう

さいしよにチェック!

① よがあける

② こおろぎ

1 (れい) なきつづけたから。

2 ウ

3 ア

●ことばについて学びましょう

日曜日に、お母さんといっしょにお昼ごはんを作りました。たまごがうまくわれないので、

「たまごがうまくわれないよ。」

と言うと、お母さんが、

「まず、ひびを入れるのよ。」

と教えてくれたので、ひびが入るくらいにそつとぶつけて、それからわってみたら、うまくできました。

●かいせつ

●読んで考えましょう

1 すぐ前に「こおろぎは、一ばんじゅうなきつづけて」とかいてあります。

2 「ここですよ、ここですよ。コロコロコロ」というぶぶんから、「えみちやんにきこえるように」ないたのは、うさぎのぬいぐるみをえみちやんにみつけてもらったためだと考えられます。

3 「あったわ。まあよかった。こんなところにわすれていつて、ごめんね」ということばから、えみちやんの気持ちを考えましょう。

●ことばについて学びましょう

■ 作文を書くときは、いきなり原稿のように書くのではなく、まず、書くためのざいりようになる話や人のことばを思い出して、メモに書き出すと書きやすくなります。

14 せつめい文を読んで、 考えましょう① (56～59ページ)

●読んで考えましょう

さいしよにチェック!

- ① ヤマアラシ ② トゲ

1 イ

- (2) (れい) 身を守るため。
(3) 毛

2 短い五本指の足

●ことばについて学びましょう

- (2) ねこがすやすやとねている。
(3) 魚がすいすいとおよいでいる。
(4) 女の子がにこにこわらっている。
(5) 風船がふわふわうかんでいる。
(6) 男の子がおにぎりをもぐもぐ食べている。
(7) へびがよろよろはっている。
(8) ペンギンがよちよち歩いている。

●かいせつ

●読んで考えましょう

1 ヤマアラシの「トゲ」は、「せなかからおしりにかけて生えている」「てきから身を守るのに役立っています」「体に生えている毛が変化したもの」と、本文を読めば、答えは書いてあります。このようなせつめい文では、かならず本文をよく読んで、答えになるぶぶんをさがすようにしましょう。

2 すぐあとに「短い五本指の足で上手にあなをほります」とあります。

●ことばについて学びましょう

(3) たとえば「魚がおよぐ。」を「魚がゆったりとおよぐ。」にすると、魚がどのようにおよいでいるかが、くわしくつたわってきます。ようすをくわしくすることは当てはめてほかの文もつくってみましょう。

15 せつめい文を読んで、 考えましょう② (60～63ページ)

●読んで考えましょう

さいしよにチェック!

- ① 果物・木の実 ② 夜

1 ウ

2 つきささる

(3) (れい) ヤマアラシが、針をどんどんミサイルのように発射する動物

●かいせつ

●読んで考えましょう

1 すぐ前に「しつぽをふってシャツシヤツと音を出します」とあるように、まずはしつぽをふる音でてきを追いはらうのです。

2 同じだんらくをよく読みましょう。「ヤマアラシはハチのように針をつきさすと針がぬけててきの体にのこってしまう」とあり、その針がてきの内臓にまでつきささると、「トラのようなもうじゅう」でも死んでしまうことがあるのです。

3 ギリシャ時代の人たちのイメージを、すぐ前から読みとりましょう。